

この先も1000年続く二宮に



ずっとずっと続きますように

1890年、一色・中里・二宮・山西・川匂の5つの村が一つとなって、人口約4,900人の吾妻村が誕生し、それから45年後の1935年、人口は約8,300人まで増えて、名前が吾妻村から二宮町へと変わりました。そんな二宮町は、山や海といった自然に囲まれ、気温も暖かいことから「住みやすいところ」として発展してきました。

二宮町となってから85年後の2020年には、人口が約28,000人まで増えています。人口が増えるということは、人が住むための場所をつくらなければなりません。昔の人々は、自然などをできるだけ残すことで、未来の人々にとって住みやすい環境となるような町づくりをしてきてくれました。

例えば、吾妻山は、昔も今もこの町の代表的な自然の一つとなっています。これは、未来にわたって二宮町の住民から愛される山として残っていくよう、1955年に吾妻山の自然を守るためのルールがつけられたからです。

そのほかにも、お風呂やトイレなどから出るよごれた水が直接川に流れて行かないよう公共下水道などが整備され、また、川に落ちてしまったごみを拾い上げる活動や、森などの自然を守っていく活動など、この町に住む人々によって環境を守っていく活動が続けられるなど、いつの時代の人たちも、未来の住民のためになることを考えて、行動してきてくれました。



私たちには、どのようなことができるでしょうか。

地球を救う作戦を考えてみよう! ①

自然環境を守っていくために、私たちはどんな行動をしていけば良いと思う?